天神風呂遺跡群

平成１７年度発掘調査報告書

2006.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

天神風呂遺跡群

平成１７年度発掘調査報告書

2006.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

天神風呂遺跡群　出土遺物（平成１７年度調査）

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。とりわけ、赤城山南麓は、その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡に代表されるように遠い旧石器時代から現在まで人々のさまざまな生活が繰り広げられました。

前橋市・大胡町・宮城村・粕川村の１市１町２村は平成 16 年 12 月５日に合併を行い、赤城山南麓の広範囲を占めることとなりました。

かつて、この地の養蚕を支えた風物詩といえる桑畑は消えゆく運命を辿っております。近年、赤城山南麓一帯は産業構造の変化と相まって大規模な圃場整備事業や工業団地、住宅団地造成、道路建設が広範囲に実施されたため数多くの発掘調査が展開されました。

小坂子町に所在する小坂子一木峯遺跡も赤城山南麓に立地するものであり、調査によって古代の住居跡や溝跡を検出することができました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関の物心両面にわたるご協力や各方面のご配慮の結果といえます。また、調査が円滑に進められたのは、調査に携わってくださった作業員のみなさんのお陰です。ここに厚くお礼申しあげます。

なお、本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 18 年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　根　岸　　雅

例　　言

1．本報告書は、前橋市茂木町宅地造成事業に伴う天神風呂遺跡発掘調査報告書である。

2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3．発掘調査の要項は次のとおりである。

　調査場所　群馬県前橋市茂木町 339 - 2

　発掘調査期間　平成 17 年 7 月 15 日 - 平成 17 年 8 月 3 日

　整理・報告書作成期間　平成 17 年 8 月 4 日 - 平成 18 年 3 月 18 日

　発掘・整理担当者　大崎 和久・遠藤 たか美（発掘調査係員）

4．本書の原稿執筆・編集は大崎・遠藤が行った。

5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

　阿部シゲ子・神澤とし江・斉藤頼江・杉測富雄・登坂うた子・友永　茂・萩原秀子・橋本　茂

6．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。

2．挿図に建設省国土地理院発行の 1/200,000 地形図（宇都宮、長野）、1/25,000 地形図（前橋）、1/2,500 前橋市現形図を使用した。

3．遺跡の略称は、次のとおりである。天神風呂遺跡群 :1712

4．遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

　H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　W…溝跡　D…土坑

　P…ピット・貯蔵穴（住居内 P5 を貯蔵穴とした。）

5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

　遺構　住居跡・溝跡・土坑・ピット…1/60　竈断面図…1/30　全体図…1/200

　遺物　土器…1/3　石器・石製品…1/1、1/3　鉄製品…1/1

6．計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。

7．スクリーントーンの使用は次のとおりである。

　遺構平面図　焼　土…　灰…　粘土…　炭化物…

　遺構断面図　構築面…

　遺物実測図　須恵器断面…　炭化物（煤付着など）…

　灰釉・緑釉陶器断面…　灰釉陶器内面…

8．主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

　As-B　（浅間 B 軽石 : 供給火山・浅間山、1108 年）

　Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ : 供給火山・榛名山、6 世紀中葉）

　Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ : 供給火山・榛名山、6 世紀初頭）

　As-C　（浅間 C 軽石 : 供給火山・浅間山、4 世紀前半）

目　次

はじめに
例　言
凡　例
目　次
挿図目次
表目次

Ⅰ　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境
　1．遺跡の立地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　2．歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
Ⅲ　調査の方法と経過
　1．調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
　2．調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
Ⅳ　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
Ⅴ　遺構と遺物
　1．竪穴住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
　2．溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
　3．陥し穴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
　4．土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
Ⅵ　成果と問題点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
　写真図版
　　PL.1　遺構写真（1）
　　PL.2　遺構写真（2）
　　PL.3　遺構写真（3）
　　PL.4　遺物写真（1）
　　PL.5　遺物写真（2）
　　PL.6　遺物写真（3）
　報告書抄録

挿図目次

Fig. 1　遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Fig. 2　周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
Fig. 3　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
Fig. 4　グリッド設定図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
Fig. 5　遺構全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11・12
Fig. 6　H-1,6 号住居・D-3 号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
Fig. 7　H-2 号住居・D-1,2 号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
Fig. 8　H-3,5 号住居・D-4,5 号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
Fig. 9　H-4 号住居・JD-1 号陥し穴・W-1 号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
Fig. 10　土器（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
Fig. 11　土器（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
Fig. 12　土器（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
Fig. 13　石器・石製品・鉄製品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

表目次

Tab. 1　天神風呂遺跡群周辺遺跡概要一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
Tab. 2　住居跡計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
Tab. 3　土坑・陥し穴計測表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
Tab. 4　縄文時代の土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
Tab. 5　古墳・平安時代の土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
Tab. 6　石器・石製品観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
Tab. 7　鉄製品観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市茂木町宅地造成事業に伴い実施された。平成 17 年 7 月 4 日、大原 大次郎氏より埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 根岸 雅に対し、調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。その後、調査団と調査依頼者とで協議・調整を図り、7 月 15 日に両者の間で天神風呂遺跡Ｋ地点に関する埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結された。現地での発掘調査は 7 月 15 日から開始した。

なお、遺跡名称「天神風呂遺跡群」（遺跡コード：1712）の「天神風呂」は旧地籍の小字名を採用し、過年に実施した調査を含め天神風呂遺跡群とした。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1．遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地（洪積台地）利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の広瀬川低地帯（洪積低地）の 4 つの地域に分けられる。平成 16 年 12 月 5 日、市町村合併により、大胡、宮城、粕川地区が加わった。

本遺跡の立地する茂木町は、前橋市の北東部に位置し市町村合併前の大胡町に属する。県中央部にあるカルデラ型火山赤城山の南麓裾野上に位置し、この地域を載せる大地は、赤城山の火山活動に起因する火山堆積物（大胡火砕流堆積物）とそれを覆う関東ローム層によって形成される洪積台地で、荒砥川・神沢川・能満寺川・寺沢川等の河川により、放射谷や火山麓扇状地を形成し現在に至っている。低地部には小規模水田が開け、台地上には畑地帯が広がる。街区の中心は戦国時代の大胡氏～近世初期の牧野氏の居城であった大胡城の城郭部とその城下町である大字大胡を核とする地域であり、日光裏街道の大胡宿としても繁栄した。本遺跡地は、市役所から北東へ約 8 ㎞、大胡支所から南西へ 1.5 ㎞、上毛電鉄大胡町駅から南西へ 0.9 ㎞に当たる。遺跡地の周辺は主要地方道、前橋・大間々・桐生線（大胡バイパス）の開通により、商業地域並びに宅地化が著しい地区である。

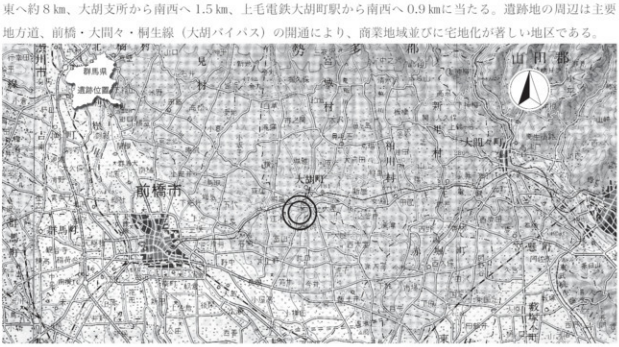


Fig.1 遺跡位置図

２．歴史的環境

本遺跡周辺には、現在に至るまで開発に伴う調査等により、旧石器時代から中世・近世までの遺跡が確認されている。

堀越並木遺跡（6）は上毛電気鉄道の「大胡駅」から北々西に直線距離で 2.2km あり、この場所は大胡城（36）の城郭部である南曲輪（四ノ曲輪）に位置する。西方には低地を挟んで大胡小学校・中学校があり、この一帯が殿町と呼ばれる武家屋敷跡になる。学校の西側を縦断する町道上ノ町・前野原線を北進すると大胡城主の菩提寺である養林寺（34）があり、その西方には大胡太郎の開祖と云われる長善寺がある。この付近も古く平安時代の集落があったと考えられる。同所より 1km 程北進すると西方に縄文時代前期のニッ木式期の集落跡と平安時代の把手付鍋や「立」の焼印、馬具等の鉄製品、「立」と書かれた墨書土器や礎石を有する竪穴住居跡・掘立柱建物跡が検出され、下級官人に掌握されたと考えられる堀越中道遺跡（21）があり、東方にも平安時代の竪穴住居跡が検出された堀越乙関替戸遺跡（22）がある。

北～北東方向に走行する大胡 11 号線沿いには、縄文時代後期（堀之内～加曽利 B 式）の土器が多く出土した堀越西一丁田遺跡（10）が隣接し、さらに北上すると縄文時代中期の集落である甲諏訪遺跡（11）に続く。大胡 10 号線を北上すると竪型製鉄炉や木炭窯、住居跡が検出された乙西尾引遺跡（9）等がある。

並木遺跡の西方は、薬師川・二本松川やその支流、さらに寺沢川が南流する低地と台地が交互に織り成し、薬師川右岸の台地の東側縁辺部には古墳時代の集落跡である新畑遺跡（20）、同遺跡の南方にある同時期の集落跡の五十山遺跡（32･33）があり、さらに南下すると縄文時代後期（堀之内式）の注口土器が出土した天神遺跡（43）、古墳時代の中期～後期の集落跡、そして瓦塔・浮瓶等の寺院に係わる遺物や朱墨土器等が出土した奈良・平安時代頃の拠点的集落跡と考えられている天神風呂遺跡群(2)が分布する。同遺跡の南東方向には低地を挟んで藤岡・大胡線の両側に東･西小路古墳群（61）、縄文時代中期（加曽利 E 式）の集落と古墳を検出した西小路遺跡（48）と上ノ山遺跡（49）がある。

二本松川やその支流、寺沢川沿いにも多くの遺跡が存在し、縄文時代前期のニッ木式期の集落跡である堀越丙･丁二本松遺跡（16･19）、横沢新屋敷遺跡（14）、同期の黒浜･有尾式期の集落跡である横沢向山遺跡（24）がある。同台地上には小円墳が多く築かれ、古墳群を構成しているが、その大半は痕跡を留める程度の残存であり、横沢新屋敷遺跡や横沢大塚遺跡（5）では記載漏れの古墳が検出されている。

大胡城跡の崖下を流れる荒砥川の東では、弘仁九（818）年の地震に起因する泥流で埋没した水田址である中宮関遺跡（46）、縄文時代前期（諸磯式）の土器、須恵器窯・木炭窯・竪型製鉄炉等を検出した上大屋・樋越地区遺跡群（62）等がある。

Fig.2 周辺の遺跡

Tab.1　天神風呂遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	道跡名	内容							文　　献
		旧石	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世	
1	本発掘調査		○						本書所収
2	天神風呂遺跡群		○		○	○	○		『天神風呂遺跡』
3	堀越内諏訪遺跡		○			○			『堀越内諏訪遺跡』
4	横沢芳山遺跡		○			○			『横沢芳山遺跡・横沢大塚遺跡』
5	横沢大塚遺跡		○		○				『横沢芳山遺跡・横沢大塚遺跡』
6	堀越亜木A・C地点遺跡		○						『堀越亜木A・C地点遺跡』
7	堀越乙諏訪遺跡		○						『堀越乙諏訪遺跡』
8	西天神遺跡		○			○			『乙内尾引遺跡・西天神遺跡・柴崎遺跡』
9	乙内尾引遺跡		○			○			『乙内尾引遺跡・西天神遺跡・柴崎遺跡』
10	堀越西一丁田遺跡		○					○	『堀越西一丁田遺跡・堀越乙閉替戸遺跡』
11	甲諏訪遺跡		○						『甲諏訪遺跡1』
12	横沢芳山A地点遺跡					○			
13	横沢芳山B地点遺跡					○			
14	横沢新屋敷遺跡	○	○		○	○	○	○	『横沢新屋敷遺跡』
15	堀越芝山遺跡		○		○				『堀越芝山遺跡』
16	堀越丁二本松B地点遺跡		○						『堀越丁二本松B地点遺跡・大胡神社前遺跡・貴林寺興遺跡』
17	横沢城跡						○		『大胡町誌』
18	横沢向田遺跡		○		○				『横沢向田遺跡・堀越丁二本松遺跡・横沢向山遺跡他・茂木二本松遺跡』
19	堀越丁二本松遺跡	○	○			○		○	『横沢向田遺跡・堀越丁二本松遺跡・横沢向山遺跡他・茂木二本松遺跡』
20	新畑C地点遺跡		○		○	○			『新畑C地点遺跡』
21	堀越中道遺跡		○		○	○		○	『堀越中道遺跡』
22	堀越乙閉替戸遺跡					○			『堀越西一丁田遺跡・堀越乙閉替戸遺跡』
23	横沢向山B地点遺跡		○		○	○			『横沢向山B地点遺跡』
24	横沢向山遺跡		○		○	○			『横沢向田遺跡・堀越丁二本松遺跡・横沢向山遺跡他・茂木二本松遺跡』
25	大胡町第30号古墳				○				『乙内尾引遺跡・西天神遺跡・柴崎遺跡』
26	茂木二本松遺跡		○			○			『横沢向田遺跡・堀越丁二本松遺跡・横沢向山遺跡他・茂木二本松遺跡』
27	横沢柴崎遺跡		○					○	『乙内尾引遺跡・西天神遺跡・柴崎遺跡』
28	茂木米野道上遺跡		○		○				
29	堀越甲真木遺跡					○			
30	生協団地古墳				○				
31	堀越甲真木B地点遺跡	○	○			○			
32	堀越五十山D・E地点遺跡				○	○			
33	堀越五十山C地点遺跡				○	○			
34	貴林寺観ノ興遺跡		○			○	○	○	『堀越丁二本松B地点遺跡・大胡神社前遺跡・貴林寺興遺跡』
35	殿明遺跡						○	○	『殿明遺跡』
36	大胡城址（県指定史跡）						○	○	『大胡町誌』ほか
37	日光道東遺跡	○	○		○	○			『日光道東遺跡』
38	大胡東小学校遺跡		○			○			
39	浅見遺跡		○			○			『浅見遺跡』
40	丁田城（稲荷屋敷）						○		『大胡町誌』
41	堀越古墳（県指定史跡）				○				『大胡町誌』ほか
42	堀越小北本遺跡		○						
43	大神遺跡		○			○		○	『群馬県史資料編1』
44	茂木大道下遺跡				○	○		○	
45	上大屋・猫越地区遺跡群		○			○			『上大屋・猫越地区遺跡群』
46	中宮問遺跡				○	○			
47	下宮問遺跡				○				
48	西小路遺跡	○	○		○	○		○	『西小路遺跡』
49	上ノ山遺跡	○	○		○	○		○	『上ノ山遺跡』
50	茂木吉塩					○			
51	茂木諏訪東B地点遺跡		○		○	○			
52	小林（ミツ屋）遺跡	○	○		○	○			『小林・山神・大畑遺跡』
53	茂木山神II遺跡		○		○	○			『茂木山神II遺跡』
54	山神遺跡		○		○	○			『小林・山神・大畑遺跡』
55	大畑遺跡		○						『小林・山神・大畑遺跡』
56	見輕町遺跡		○		○	○			『大胡町誌』ほか
57	梅沢遺跡					○			
58	稲荷窪B地点遺跡	○	○		○	○			『稲荷窪B地点遺跡』
59	茂木大日遺跡					○			
60	稲荷窪A地点遺跡		○		○	○			『稲荷窪A地点遺跡』
61	東・西小路古墳群				○				
62	上大屋・猫越地区遺跡群					○			『上大屋・猫越地区遺跡群』

◎は遺構が確認されている　　○は遺物のみ確認

Ⅲ　調査の方法と経過

1．調査の方法

委託調査個所は、前橋市茂木町宅地造成事業の宅地予定地で、本調査が必要とされた地域（330㎡）である。グリッドについては、４ｍピッチで西から東へ０・１・２・３…と北から南へＡ・Ｂ・Ｃ…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のＡ・０の公共座標（平面直角座標）は次の通りである。

旧日本測地系（TKY）Ⅸ系

+44,988（X）　-60,910（Y）

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、業者による委託測量 1/40 を行い、補足として平板・簡易造り方測量を用いて、遺構平面図は原則として 1/20、住居跡の竈は 1/10 の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2．調査の経過

発掘調査は、７月 15 日から開始した。重機（バックフォー 0.4 ㎥）１台を使い、調査区の表土掘削を行った。遺構確認面まで約 20cm と薄かったため、掘削作業は１日で終了し重機掘削後、鋤簾による遺構確認を行った。７月 15 日に杭打ち測量を行い、遺構の掘下・精査に入った。遺構精査の結果、縄文時代の住居跡１軒、古墳時代の竪穴住居跡３軒、平安時代の竪穴住居跡３軒、土坑５基、溝跡１条、陥し穴１基が検出された。７月 28 日に全景写真撮影を行い、その後８月３日に埋め戻しを行い、調査を終了した。

８月４日から文化財保護課に戻り、出土遺物・図面・写真等の整理作業にあたった。３月 18 日、遺物・図面・写真等の整理作業をすべて終了した。

Ⅳ　基本層序

前橋市の地形・地質は、①北東部の赤城火山斜面、②南西部の洪積台地（いわゆる前橋台地）、③❶❷にはさまれた広瀬川低地帯、④現利根川氾濫原の４つに大別される。

本遺跡は①に属し、南向きの緩斜面をなすほか、東西両隣りが谷状の窪地で、南北に台地状をなす。

Ⅰ	黒褐色土	現耕作土及び盛り土。
Ⅱ	黄褐色土	黄色の軽石粒を僅かに含む。本層上面を遺構確認面とした。締まり、粘性あり。
Ⅲ	黄褐色土	ハードローム層。締まり強く、粘性あり。
Ⅳ	暗黄褐色土	径１mm 以下のオレンジ・黒・黄色の粒(YP)を含む。締まり強く、粘性はややあり。
Ⅴ	黄褐色土	粒状土。締まり粘性とも強い。

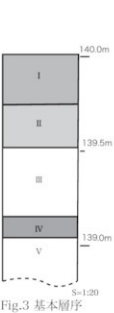


Fig.3 基本層序

Fig.4 グリッド設定図

V　遺構と遺物

1．竪穴住居跡

J-1 号住居跡 (Fig.7、PL.3)

位置 E・F-1・2 グリッド **形状等** 円形状と推定される。東西 3.50m、南北（2.34）m、壁現高 36cm を測る。**面積**（6.75）㎡ **床面** ほぼ平坦な床面。**炉** 住居の中央付近と推測される部分から、長軸 88cm、深さ 31cm を測る円形状の土坑を検出。焼土と炭化物を僅かに確認できたため、炉跡と推測される。この中から複数の土器片と多量の石が確認できたため、集石炉と考えられる。**出土遺物** 総数 49 点の遺物が出土。この内図示したものは、深鉢片 4 点、浅鉢片 3 点である。**備考** 時期は埋土や出土遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。

H-1 号住居跡 (Fig.6、PL.1)

位置 F・G-2・3 グリッド **主軸方向** N － 91°－ E **形状等** 長方形。東西 2.94m、南北 4.02m、壁現高 29cm を測る。**面積** 10.42 ㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。**貯蔵穴** 南東隅に P5・円形を呈し、長径 23cm、短径 20cm、深さ 68cm を測る。**竈** 東壁南寄りに付設され、主軸方向は N － 92°－ E であり、全長 89cm、最大幅 56cm、焚口部幅 34cm を測る。構築材として粘土を使用。竈の焚口から、須恵器の坏が 2 点重なるように出土した。**重複** H-2 と重複しており、新旧関係は H-2 →本遺構である。**出土遺物** 総数 359 点の遺物が出土。この内、須恵器坏 3 点、高台埦 2 点、鉄製品 1 点、石器 1 点を図示した。**備考** 時期は埋土や出土遺物から 9 世紀後半と考えられる。

H-2 号住居跡 (Fig.7、PL.1)

位置 E-G-1-3 グリッド **主軸方向** N － 73°－ E **形状等** 正方形。東西 4.92m、南北 4.48m、壁現高 29cm を測る。**面積**（21.50）㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。**貯蔵穴** 南東隅に検出 P5・楕円形を呈し、長径 81cm、短径 64cm、深さ 51cm を測る。柱穴 北西隅に P1・円形を呈し、長径 23cm、短径 20cm、深さ 68cm を検出。南西に P2・円形を呈し、長径 22cm、短径 22cm、深さ 66cm、南東に P3・楕円形を呈し、長径 32cm、短径 24cm、深さ 52cm、北東に P4・円形を呈し、長径 27cm、短径 27cm、深さ 60cm を測る。**竈** 東壁南寄りに付設され、主軸方向は N － 75°－ E であり、全長 81.5cm、最大幅 93cm、焚口部幅 26.5cm を測る。構築材として粘土と袖に土師器の甕を使用している。**重複** J-1・H-1 と重複しており、新旧関係は J-1 →本遺構→ H-1 である。**出土遺物** 総数 227 点の遺物が出土。この内図示したものは、土師器小甕 1 点、土師器甕 2 点である。**備考** 時期は埋土や出土遺物から 6 世紀前半から 6 世紀中葉と考えられる。

H-3 号住居跡 (Fig.8、PL.2)

位置 C・D-2・3 グリッド **主軸方向** N － 126°－ W **形状等** 正方形と推測される。東西 3.38m、南北 3.32m、壁現高 18cm を測る。**面積**（9.17）㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。**貯蔵穴** 南西隅に検出 P5・楕円形を呈し、長径 57cm、短径 42cm、深さ 30cm を測る。**竈** 西壁南寄りに付設され、主軸方向は N － 127°－ W であり、全長 79cm、最大幅 86cm、焚口部幅 56cm を測る。構築材として粘土を使用している。**出土遺物** 総数 48 点の遺物が出土。この内図示したものは、土師器小甕 1 点である。**備考** 時期は埋土や出土遺物から 7 世紀後半と考えられる。

H-4 号住居跡 (Fig.9、PL.2)

位置 D・E-4・5 グリッド **主軸方向** N － 80°－ E **形状等** 正方形状と推定される。東西（4.50）m、南北 5.54m、壁現高 41cm を測る。**面積**（24.24）㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。**柱穴** 北西に P1・円形を呈し、長径 38cm、短

径 36cm、深さ 48cm を検出。南西に P2・円形を呈し、長径 48cm、短径 45cm、深さ 65cm、北東に P4・楕円形を呈し、長径 50cm、短径 42cm、深さ 52cm を測る。**竈** 調査区外のため検出されず。床面の焼土や炭化物分布から東壁の南寄りと推測できる。**出土遺物** 総数 581 点の遺物が出土。この内図示したものは、土師器坏 5 点、土師器小甕 1 点、土師器甕 2 点、土師器壺 1 点、須恵器高坏 1 点、石製品 4 点である。**備考** 時期は埋土や出土遺物から 6 世紀後半と考えられる。

H-5 号住居跡 (Fig.8、PL.2)

位置 B・C-7・8 グリッド **主軸方向** N — 3°— E **形状等** 長方形。東西 4.56m、南北 6.11m、壁現高 2cm を測る。**面積** 28.07 ㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。**柱穴** 北西に P1・円形を呈し、長径 40cm、短径 32cm、深さ 30cm を検出。南西に P2・円形を呈し、長径 42cm、短径 32cm、深さ 24cm、北西隅に P6・楕円形を呈し、長径 68cm、短径 62cm、深さ 27cm、南東端に P7・楕円形を呈し、長径 70cm、短径 58cm、深さ 56cm を測る。**竈** 検出されず。住居中央から最大径（70）cm の著しく焼けた部分が検出された（ｶﾏ 1）。また、住居南東に同じく焼けた部分が検出された（ｶﾏ 2）。**重複** D-5 と重複しており、新旧関係は本遺構→ D-5 である。**出土遺物** 総数 501 点の遺物が出土。この内図示したものは、土師器坏 1 点、土師器小壺 2 点、土師器甕 1 点、土師器壺 1 点である。**備考** 時期は埋土や出土遺物から 5 世紀後半と考えられる。

H-6 号住居跡 (Fig.6、PL.3)

位置 F・G-4・5 グリッド **主軸方向** N — 94°— E **形状等** 正方形状と推定される。東西 4.35m、南北（1.05）m、壁現高 29cm を測る。**面積**(4.22) ㎡ **床面** 平坦で堅緻な床面。**竈** 検出されず。**出土遺物** 総数 40 点の遺物が出土。**備考** 時期は埋土と出土遺物から底部に糸切り痕のある須恵器の坏片が出土したことから 9 世紀後半と考えられる。

2．溝

W-1 号溝 (Fig.9、PL.3)

位置 C・E-1 グリッド **主軸方向** N — 15°— E **形状等** U 字形。長さ（7.97）m、深さ 24cm、最大上幅 53cm、最大下幅 30cm を測る。**出土遺物** 総数 4 点の遺物が出土。この内図示したものは、石製品 1 点である。**備考** 時期は埋土や出土遺物から 9 世紀後半と考えられる。

3．陥し穴

JD-1 号土坑 (Fig.9、PL.3)

位置 E-4 グリッド **形状等** 北西から南東方向に長軸を有し、長径 2m、短径 1.05m、深さ 1.35m を測る。平面径は楕円形と推測される。**底面** 径 12-13cm、深さ 135cm を測る柱穴 2 基が長軸方向に並んで検出された。**重複** H-4 と重複しており、新旧関係は本遺構→ H-4 である。**出土遺物** なし。**備考** 本土坑は、形状から所謂陥し穴と考えられる。

4．土坑

土坑については、Tab.3 土坑・陥し穴計測表（P.9）を参照のこと。

Tab.2　住居跡計測表

道構名	位　置	土軸方向	規模（m）東西×南北	壁現高（cm）	面積（㎡）
J-1	E・F－1・2		3.50×（2.34）	36.0	6.75
H-1	F・G－2・3	N- 9 1°-E	2.94×4.02	29.0	10.42
H-2	E・G－1・3	N- 7 3°-E	4.92×4.48	29.0	21.50
H-3	C・D－2・3	N-1 2 6°-W	3.38×3.32	18.0	9.17
H-4	D・E－4・5	N- 8 0°-E	(4.50)×5.54	41.0	24.24
H-5	B・C－7・8	N- 3°-E	4.56×6.11	2.0	28.07
H-6	F・G－4・5	N- 9 4°-E	4.35×（1.05）	29.0	4.22

Tab.3　土坑・隘し穴計測表

道構名	位　置	長軸（cm）	短軸（cm）	深さ（cm）	形状
D-1	F－1・2	82	68	29	楕円形
D-2	E・F－1・2	87	70	48	長方形
D-3	E・F－1・2	112	97	24	方形
D-4	D－3	133	133	65	正方形
D-5	B・C－7・8	234	204	114	正方形
JD-1	E－4	200	105	135	楕円形

Tab.4　縄文時代の土器観察表

番号	道構番号/層位	器種	①胎土②焼成③色調④遺存度	文様構成・文様施文・器形の特徴	備考
1	J-1 炉・床直	深鉢	①中粒②良好③にぶい褐④口縁	口唇部は３条の横位平行沈線を巡らす。口縁部文様帯は隆帯で区画し、区画内は横Ｓ字状の隆帯を付し、隆帯に２条の沈線を施す。隆帯側面に1/2分割手蕨竹管を並べて押印する。	三原田式
2	J-1 炉・床直	深鉢	①中粒②良好③明赤褐④口縁・胴部上位	口縁部文様帯は横Ｓ字状の隆帯を施し、隆帯に沿って２条の沈線を巡らせる。２条の沈線は胴部上位に延び、刺突文を沿わせる。波状文や楕円形状の文様になると考えられえる。縦位の３条の平行沈線を施す。	中期中葉
3	J-1 炉・床直	深鉢	①細粒②良好③明黄褐④口縁破片	口唇部直下に押し引き文を施し、横Ｓ字状と考えられる隆帯を付す。	阿玉台式
4	J-1 炉・床直	深鉢	①中粒②良好③明赤褐④胴部破片	平底竹管による縦位の条線を施す。平行沈線と円形区画で構成される。	焼町式
5	J-1 炉・床直	浅鉢	①中粒②良好③にぶい褐④口縁破片	波状口縁。内面口縁部隆体面ベンガラ付着。外面無文。内面煤付着。No.6と同一固体。	中期中葉
6	J-1 炉・床直	浅鉢	①中粒②良好③にぶい褐④口縁破片	波状口縁。内面口縁部隆体面ベンガラ付着。外面無文。	中期中葉
7	J-1 炉・床直	浅鉢	①中粒②良好③赤褐④口縁・胴部上位	直線状に開く胴部から「く」の字状に屈曲する口縁に至る。外面無文。	中期中葉

（注）

①層位は，「床直」：床面から 10cm 未満の層位からの検出，「埋土」：床面から 10cm 以上の層位からの検出の２段階に分けた。遺内の検出については，「遺内」と記載した。

②口径と，器高の単位は cm であり，重さの単位は g である。現存値を（），復元値を［］で示した。その他の小片については，所属部位を記載した。

③胎土は，細粒（1.0mm 未満），中粒（1.0-2.0mm 未満），粗粒（2.0mm 以上）とし，特徴的な混和物が入る場合に混物名等を記載した。

④焼成は，極良・良好・不良の三段階とした。

⑤色調は土器外面を観察し，色名は新版標準土色帖（小山・竹原 1976）によった。

Tab.5　古墳・平安時代の土器観察表

番号	道構番号/層位	器種	①口径 2器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備考
8	H-1 竈・床直	坏 須恵器	① 12.6 ② 3.6	①粗粒②良好③にぶい黄橙④完形	轆轤整形。口縁：撫かに外反。内・外面/撫で。体部：外傾。撫かに丸味を持つ。内・外面/撫で。底部：平底。内面/撫で。外面/回転糸切り未調整。外面の口縁・体部に掛けて「男」の墨書有り。	墨書
9	H-1 埋土	坏 須恵器	① 13.4 ② 4.0	①粗粒②良好③にぶい黄褐 ④ 2/3	轆轤整形。口縁：撫かに外反。内・外面/撫で。体部：外傾。内・外面/撫で。底部：平底。内面/撫で。外面/回転糸切り未調整。外面の口縁・体部に掛けて「○」の墨書，底部内面に「○？」の墨書有り。	墨書
10	H-1 竈・床直	坏 須恵器	① 12.8 ② 4.3	①中粒②良好③橙④7/8	轆轤整形。口縁：撫かに外反。内・外面/撫で。体部：外傾。内・外面/撫で。底部：平底。内面/撫で。外面/回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
11	H-1 床直	高台埦 須恵器	① 16.4 ② 6.0	①粗粒②良好③灰④4/5	轆轤整形。口縁：撫かに外反。内・外面/撫で。体部：外傾。内・外面/撫で。底部：平底。内面/撫で。外面/回転糸切り未調整。高台部：高台貼り付け。短く直立気味。	
12	H-1 床直	高台埦 灰釉陶器	① 16.2 ② 5.0	①粗粒②良好③灰オリーブ ④ 4/5	轆轤整形。口縁：外反。内・外面/撫で。弱い稜有り。体部：外傾。撫かに丸味を持つ。内・外面/撫で。底部：平底。内面/撫で。外面/回転篦削り調整。高台部：付け高台。直立気味。全体に器肉が薄い。	体部の内・外面のみ硝化牽ちによる施釉
13	H-2 床直	小甕 土師器	① 16.0 ② (8.8)	①粗粒②良好③灰④ 1/2	口縁：短く外反。内・外面/横撫で。頸部：撫かに外反。内・外面/横撫で。体部：緩やかに内湾。内面/撫で。外面/縦位の篦削り。上位に最大径を持つ。底部：欠損。	
14	H-2 床直	甕 土師器	① 19.0 ② (20.1)	①粗粒②良好③にぶい黄橙 ④ 1/2	口縁：外反。内・外面/横撫で。頸部：大きく外反。明瞭なくびれ有り。内・外面/横撫で。胴部：緩やかに内湾。内面/撫で。外面上位/縦位の篦削り。中位/横位の篦削り。底部：欠損。	
15	H-2 竈・床直	長胴甕 土師器	① 19.0 ② 33.0	①中粒②良好③にぶい黄橙 ④ 1/3	口縁：外反。内・外面/横撫で。頸部：緩やかに外反。内・外面/横撫で。胴部：緩やかに内湾。内面/篦削り後，撫で。外面/縦位の篦削り。中位に最大径を持つ。底部：平底。内面/撫で。外面/篦削り。	
16	H-3 床直	小型甑 土師器	① 14.4 ② (12.3)	①粗粒②良好③赤褐④完形	口縁：撫かに外反。内面/横撫で。外面上位/撫かに篦磨き痕有り。頸部：撫かに外反。内・外面/横撫で。胴部：撫かに内湾。内面/篦磨き。外面/斜め位の篦削り。底部：径7.4cmの平底。	

番号	遺構番号 / 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
17	H-4 床直	坏 土師器	① 12.8 ② 5.3	①細粒②良好③灰白 褐④3/4	口縁：直立気味。内・外面 / 横撫で。交換点に弱い稜有り。体部：外組、稚かに丸味を持つ。内面 / 撫で。外面 / 横位の箆削り。底部：浅い丸底。内面 / 撫で。外面 / 箆削り。	
18	H-4 床直	坏 土師器	① 13.0 ② 5.1	①中粒②良好③に ぶい赤褐 ④2/3	口縁：直立気味。やや外組。内・外面 / 横撫で。交換点に稜有り。体部：外組、稚かに丸味を持つ。内面 / 撫で。外面 / 横位の箆削り。底部：浅い丸底。内面 / 撫で。外面 / 箆削り。	
19	H-4 床直	坏 土師器	① 12.6 ② 5.4	①粗粒②良好③に ぶい赤褐 ④9/10	口縁：直立気味。やや外組。内・外面 / 横撫で。交換点に稜有り。体部：外組、稚かに丸味を持つ。内面 / 撫で。外面 / 横位の箆削り。底部：浅い丸底。内面 / 撫で。外面 / 箆削り。	
20	H-4 床直	坏 土師器	① 12.2 ② 5.4	①粗粒②良好③褐 ④9/10	口縁：直立気味。内・外面 / 横撫で。交換点に稜有り。体部：外組、稚かに丸味を持つ。内面 / 撫で。外面 / 横位の箆削り。底部：浅い丸底。内面 / 撫で。外面 / 箆削り。	
21	H-4 床直	坏 土師器	① 12.2 ② 5.6	①細粒②良好③に ぶい橙 ④5/6	口縁：内湾。内面 / 横撫で。外面 / 箆磨き。体部：内湾。内面 / 箆磨き。外面 / 箆削り後、撫で。指圧痕有り。底部：平底気味。内面 / 撫で。外面 / 箆削り。	
22	H-4 床直	小甕 土師器	① 12.4 ② 13.6	①粗粒②良好③に ぶい橙 ④2/3	口縁：稚かに外反。内・外面 / 横撫で。頸部：外反。内・外面 / 横撫で。体部：内湾。球状になる。内面 / 撫で。外面 / 斜め位の箆削り。中位に最大径を持つ。底部：丸底気味。内面 / 撫で。外面 / 箆削り。	
23	H-4 床直	土師器 壺	① 18.0 ② 26.2	①細粒②良好③赤 褐④5/6	口縁：外反。内・外面 / 横撫で。頸部：直立気味に立ち上がり、稚かに外反しながら口縁に至る。内・外面 / 横撫で。胴部：内湾。球状になる。内面 / 撫で。外面 / 縦位の箆削り。中位に最大径を持つ。底部：平底。突出気味。内面 / 撫で。外面 / 箆削り。	
24	H-4 床直	土師器 甕	① - ② (20.2)	①粗粒②良好③黒 褐④1/2	口縁から胴部上位：欠損。胴部中位：緩やかに内湾。内面 / 箆削り後、撫で。外面 / 縦位の箆削り。底部：平底。内面 / 撫で。外面 / 箆削り。	
25	H-4 床直	土師器 甕	① (17.0) ② 27.4	①中粒②良好③に ぶい橙 ④2/3	口縁：外反。内・外面 / 横撫で。頸部：外組。内・外面 / 横撫で。胴部：緩やかに内湾。内面 / 撫で。外面上位 - 中位 / 斜め位の箆削り。下位 / 縦位の箆削り。底部：平底。内面 / 撫で。外面 / 箆削り。	
26	H-4 床直	須恵器 高坏	① 16.4 ② (6.5)	①粗粒②良好③灰 ④4/5	脚端整形。口縁：稚かに外反。内・外面 / 横撫で。交換点に２本の稜有り。体部：外組。稚かに丸味を持つ。内・外面 / 撫で。上位 / 波状痕有り。底部：浅い丸底。内面 / 撫で。外面 / 高台貼り付け痕あり。すかし孔を作る為の方子痕３箇所有り。高台部：欠損。	
27	H-5 床直	土師器 坏	① 13.8 ② (6.3)	①中粒②良好③赤 褐④3/4	口縁：外傾気味。内面 - 外面 / 横撫で。体部：内湾。内面 / 撫で。外面 / 箆削り後、撫で。底部：欠損。	
28	H-5 床直	土師器 小甕	① 9.4 ② 12.9	①粗粒②良好③赤 褐④完形	口縁：外反。内面 / 稚かに箆磨き痕あり。外面 / 横撫で。頸部：短く外反。内・外面 / 箆磨き。胴部：内湾。球状になる。内面 / 撫で。外面 / 箆磨き。底部：丸底気味。内面 / 撫で。外面 / 箆削り後、撫で。	
29	H-5 床直	土師器 小甕	① 11.0 ② (11.7)	①粗粒②良好③赤 褐④1/3	口縁：外組。内・外面 / 横撫で。頸部：短く外反。内・外面 / 横撫で。胴部：緩やかに内湾。球状になる。内面 / 撫で。外面 / 縦位の箆削り。底部：欠損。	
30	H-5 床直	土師器 甕	① - ② (20.5)	①中粒②良好③赤 褐④1/4	口縁から頸部：欠損。胴部：内湾。球状に近い。内面 / 箆削り後、撫で。外面 / 上位から中位 / 斜め位の箆削り。下位 / 縦位の箆削り。底部：内面 / 撫で。外面 / 箆削り。	
31	H-5 床直	土師器 甑	① - ② (24.7)	①粗粒②良好③に ぶい赤 ④1/3	口縁から頸部：欠損。胴部：稚かに内湾。内面 / 横位の刷毛目痕。外面 / 縦位の刷毛目痕。底部：孤8.1cm の単孔。	

(注)

①層位は、「床直」：床面から 10cm 未満の層位からの検出、「理上」：床面から 10cm 以上の層位からの検出の２段階に分けた。遺内の検出については、「遺内」と記載した。

②口径と、器高の単位は cm であり、重さの単位は g である。現存値を（ ）、復元値を [ ] で示した。その他の小片について は、所属部位を記載した。

③胎土は、細粒（1.0mm 未満）、中粒（1.0-2.0mm 未満）、粗粒（2.0mm 以上）とし、特徴的な粗物が入る場合に粗物名等を記載した。

④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

⑤色調は土器外面を観察し、色名は新版標準土色帖（小山・竹原 1976）によった。

Tab.6　石器・石製品観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	残存
1	H-1・理上	石鏃	(2.4)	1.8	0.3	20	3/4
2	H-4・床直	砥石	18.6	7.7	4.7	600	完形
3	H-4・床直	砥石	16.1	7.6	5.7	1100	完形
4	H-4・床直	砥石	13.7	6.1	5.3	950	完形
5	H-4・床直	石製模造品	5.2	4.1	0.7	160	完形
6	W-1・理上	紡石	(5.9)	2.7	1.9	600	1/3

(注)

①層位は、「床直」：床面より 10cm 未満の層位から検出、「理上」：床面より 10cm 以上の層位から２段階に分けた。

②最大長・最大幅・最大厚の単位は cm であり、重さの単位は g である。現存値を（ ）で示した。

Tab.7　鉄製品観察表

番号	遺構・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	残存
1	H-1・理上	刀子の刃	(6.0)	1.3	0.4	90	1/4
2	H-1・理上	刀子の柄	(4.5)	1.3	0.3	30	1/4

(注)

①層位は、「床直」：床面より 10cm 未満の層位から検出、「理上」：床面より 10cm 以上の層位から２段階に分けた。

②最大長・最大幅・最大厚の単位は cm であり、重さの単位は g である。現存値を（ ）で示した。

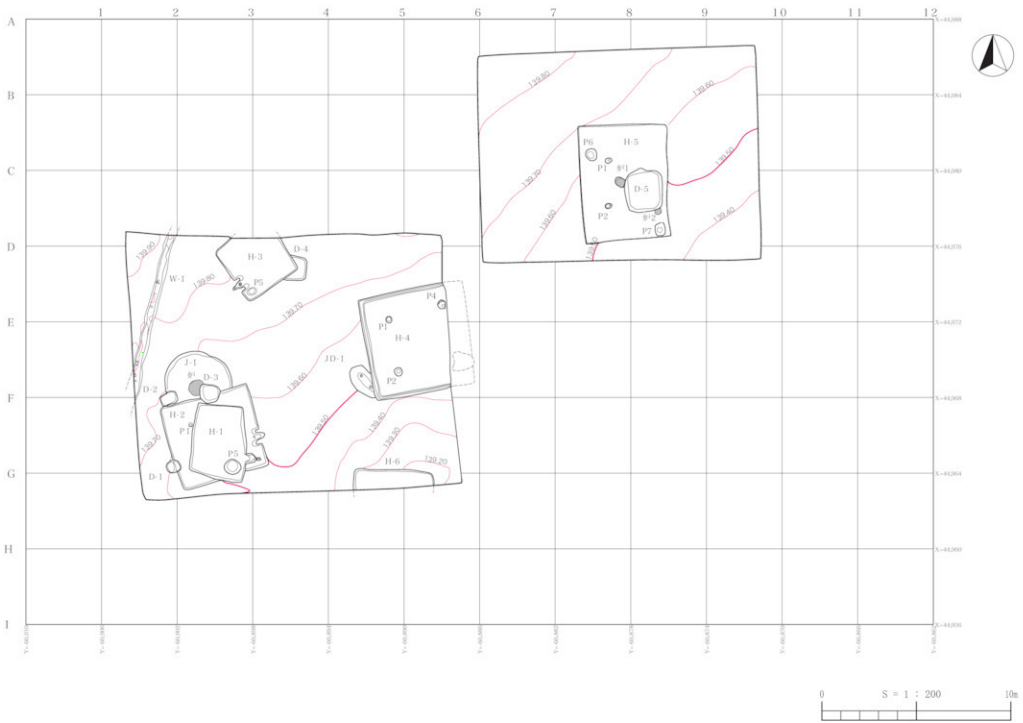

A
B
C
D
E
F
G
H
I
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
H-3
D-4
W-1
P5
P4
P1
H-4
JD-1
P2
J-1
D-3
D-2
H-2
P1
H-1
P5
D-1
H-6
H-5
P6
P1
D-5
P2
P7
0
S = 1 : 200
10m

Fig.5 遺構全体図

Ⅵ　成果と問題点

天神風呂遺跡群は昭和 56 年度から調査を開始し、現在まで 10 回以上の調査が行われている。調査の結果、縄文時代の前期黒浜・有尾式期・諸磯式期・中期焼町式期の集落や土器片が検出され、古墳時代 - 奈良・平安時代に至る集落跡も分布している。特に経塚遺跡（F 地点）では、瓦塔や浄瓶・朱墨で「磯」と書いてある灰釉陶器が検出され、寺院跡の存在を推察され、注目すべき点である。また、当茂木地区は古墳の中心地区でもあり、本遺跡のすぐ東には東・西小路古墳群や上ノ山古墳群が位置する。この事からも、当地区は遺跡の濃密な地区であった事が分かる。

本遺構の遺跡と遺物について

調査の結果、縄文時代の住居跡 1 軒、古墳時代の住居跡 5 軒、奈良・平安時代の住居跡 1 軒、土坑 5 基、陥し穴 1 基、溝跡 1 条が確認できた。ここでは、本遺跡で明らかになった遺構や遺物について時代ごとに検討していきたい。また、調査区が限られているため、その限られた範囲での検討となることを付け加えておきたい。

1．縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構については、J-1 号住居跡が確認できた。H-2 号住居跡との重複により切られているものの、円形と推測できる。床面はほぼ平坦で、炉跡の焼土部分も見当たらなかったが、中心部近くに土坑状に落ちこむ部分を確認し、掘り進めて行ったところ、焼土と炭化物が検出された。さらに、数点の土器片と多数の石が出土したことから炉跡と判断した。石が敷き詰められる様に検出された事から、集石が と考えられる。出土した土器片は、深鉢と浅鉢の破片であり縄文時代中期中葉と考えられる。本遺跡の東に位置する西小路遺跡（西小路古墳群）でも同じ時期と思われる住居跡が検出され集落を成しているが、本遺構は台地状になっていることから、大きな標高差を生じるため、同じ集落であった可能性は低い。もう一つの縄文時代の遺構として、JD-1 号土坑が検出された。所謂陥し穴である。平面形は楕円形を呈し、底に 2 基のピットが確認された。陥し穴は標高 550m の高い赤城南麓や 400m 前後の台地などに濃密に検出されることが多く、本調査区も台地状になっている事から、J-1 号住居跡を含む集落ができる前はこの辺りには集落はなく、狩猟地として利用されていたと推測される。

2．古墳から奈良・平安時代の遺構と遺物

ここでは、1981 年調査の『天神風呂遺跡』（A 地点）で古墳時代 - 奈良・平安時代の住居を出土遺物・規模・主軸方向から A-D の 4 つに分類しているため、これに従い本遺跡で検出された住居を概観していきたい。

分類は次の通りである。A 類（大型の正方形の住居で、北方向に近い主軸がみられる。鬼高期）、B 類（A 類よりも小型化が進み、主軸方向も東偏を中心として南北にばらつきがある。6 世紀後半から 8 世紀）、C 類（まとまりのある規模で、B 類とほぼ同様な主軸を呈する。8 世紀後半）、D 類（規模にばらつきが少なくなり、小型化している。主軸方向も南偏よりに集中気味になる。9 世紀 -10 世紀後半）。また、出土遺物から、4 つに分類した中で、さらに細かく分類している。

（1） A-2 類

H-5 は上からの削平で推定規模しか分からないが、南北辺 6m、東西辺 5m と大型の住居である。竈が検出さ

れず、住居の中と南東端に赤く焼けている炉跡を検出した。出土遺物も内外面に刷毛目を施す甕や小壺、やや口縁が外傾する坏、平底の底部が僅かに突出する壺などが出土した。時期は５世紀後半と考えられる。

（２） A-3-I 類

これに該当する住居はH-2・4である。2軒とも１辺約5mを測る方形を呈し、対角線上に主柱穴がみられ、東壁中央やや南寄りに竈を付設し、袖などの構築材に長胴甕を使用している。主軸方向はN-73-80°-Eを示している。出土した遺物からみると、H-2の長胴甕は小さい底部より砲弾状の胴部を呈し、頸部はややくびれ、体部外面は箆削りを施している。最大径は口縁部で測る。2点の長胴甕を検出したが、何れも竈の内部や周辺から出土しているため、構築材として使われていたと考えられる。坏類は検出されず、丸底になると思われる小甕が1点出土した。H-4をみてみると、竈があると思われる東壁南寄りを中心に遺物が出土しており、竈の構築材または、煮焚き用に使われたと思われる2点の長胴甕が出土した。形状はほぼH-2で出土した長胴甕と変わりないが、最大径を胴部中位で測る。土師器の坏は、須恵器の模倣坏の形状になり、底部は丸底味を呈し、外面に稜を設け口縁部は直立気味になるものが多く出土したが、丸底気味の底部から湾曲しながら緩やかに内傾する口縁になり内面に箆磨きを施す坏も出土している。また、底部がやや突出気味の壺も出土した。特殊な遺物として、須恵器の高坏が出土した。高台部はなく、坏部のみの出土で、外面に２本の稜を巡らし、稜線の下に波状紋を施している。また、坏部の底面に高台部の剥れた痕と６本の刀子痕があった。このことから、６本の刀子痕は高台に透かし孔を付けるために出来たもので、二本一対と考えると、高台には３箇所の透かし孔があったと考えられる。もう１点が、剣型模造品と思われる長径6.2cmほどの石製品である。2-3mmの穴が２箇所穿孔してあり、紐などを通していたと推測される。出土位置は南壁の東寄りで、竈の想定位置と近く、複数の編物石や坏片と共に出土したことから、祭祀等の儀式に用いられた可能性が高い。時期は、H-2・4共に６世紀前半－中葉と考えられる。

H-6は住居のほとんどが調査区外だったため、詳しい住居の規模など分からなかったが、検出している所をみてみると、東西辺が4m35cmと大型の住居と推測される。出土遺物も僅かだが、６世紀後半頃の甕の口縁や小甕が出土していることから、A-3類と考えられる。

（３） B-I 類

H-3が該当する。しかし、H-3は竈が西壁に付設され、主軸方向もN-126°-Wと若干B類の特徴と一致しないが、住居の規模や竈の形状、出土遺物からB-2類と判断した。出土遺物は他の住居と比べ若干少ないが、小型の甕が出土しており、外面上位に箆磨きを施している。時期は６世紀後半頃と考えられる。

（４） C 類

該当する住居は検出しなかった。

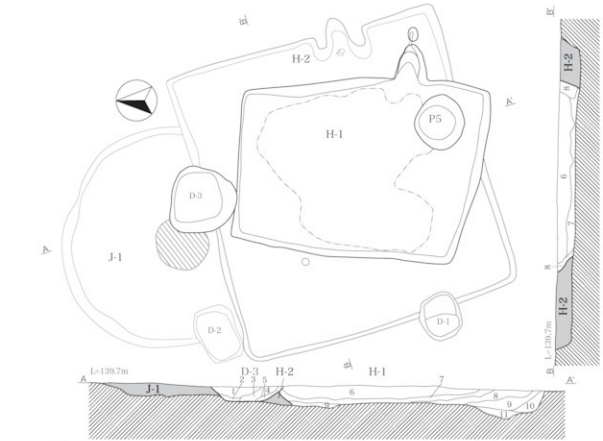
（５） D-I 類

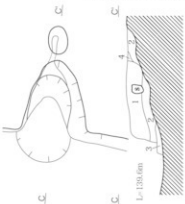
H-1・6と考えられるが、H-6については住居のほとんどが調査区外であるため、H-1を中心に概観していきたい。規模は東西辺4m前後の長方形を呈し、竈を東壁の南寄りに付設する。主軸方向N-91°-Eを示しやや南に傾く。出土遺物は、須恵器の糸切り未調整の坏や高台埦、灰釉陶器、「コ」の字口縁の甕の破片が出土しており、竈の焚口部の内から須恵器の坏が２枚重なるように出土している。

3．おわりに

分類した結果をみると、縄文時代から、古墳・奈良・平安時代と幅広い時期の住居が検出していることが分かる。H-2・4・5・6は同じA類であり、住居の規模もまとまりがみられることから、同じ集落の可能性が高い。限られた範囲での調査のため、集落構造や移り変わりなど分からないが、今後の調査で集落の全容が明らかになることを期待したい。

参考文献
群馬県大胡町教育委員会　1981『天神風呂遺跡』
群馬県大胡町教育委員会　1994『西小路遺跡』
群馬県大胡町教育委員会　1996『茂木遺跡群 稲荷窪A地点遺跡』
群馬県大胡町教育委員会　1998『茂木遺跡群 稲荷窪B地点遺跡』
群馬県大胡町教育委員会　2001『茂木山神Ⅱ遺跡』
群馬県大胡町教育委員会　2004『堀越並木（A・C地点）遺跡』





D-3 号土坑

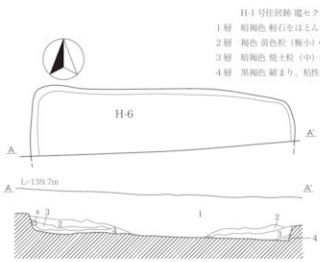
1 層　にぶい黄褐色　黄色軽石（小）を１％含む。締まりややあり、粘性あり。
2 層　黒褐色　黄色軽石（極小）を若干（１％未満）含む。締まり粘性あり。
3 層　褐色　白色軽石（極小）を若干、黄色粒（小）を２％含む。締まりややあり、粘性あり。
4 層　黒褐色　黄色軽石（小）を２％、黄色粒（小）を１％含む。締まりあり、粘性ややあり。
5 層　黒褐色　軽石を含まない、４層よりやわらかい土質。締まり粘性ともややあり。

H-1 号住居跡

6 層　黒褐色　白色軽石（小）３％,黄色軽石（極小）１％,焼土をわずか含む。締まり強,粘性ややあり。
7 層　黒褐色　白色軽石（小）３％、黄色軽石（小）１％含む。締まり強、粘性ややあり。
8 層　黒褐色　７層より含まれる軽石がわずか少ない。締まり強、粘性ややあり。
9 層　黒褐色　白色軽石（極小）１％,黄色軽石（極小）３％,黄色粒（小）２％含む。締まり,粘性あり。
10 層　黒褐色　黄色粒（小）２％含む。締まりややあり、粘性あり。
11 層　黒褐色　10 層よりやや黒色でやわらかい土質。締まりややあり。粘性あり。

H-1 号住居跡 竈セクション

1 層　暗褐色 軽石をほとんど含まない。締まり、粘性ともややあり。
2 層　褐色 黄色粒（極小・焼土粒（中）1% 未満含む。締まりあり、粘性ややあり。
3 層　暗褐色 焼土粒（中）50% 含む。締まり、粘性ともあり。
4 層　黒褐色 締まり、粘性ともあり。

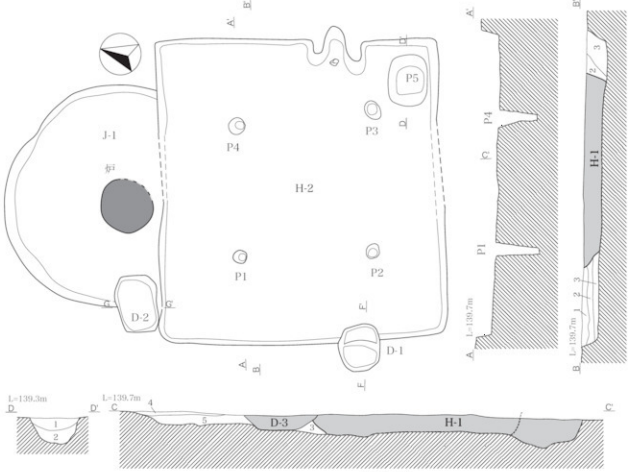


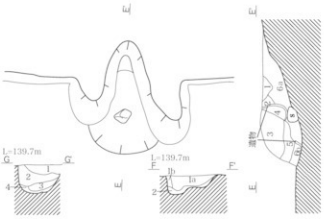
H-6 号住居跡

1 層　黒褐色　現耕作土
2 層　黒褐色　白色軽石（極小）を若干（１％未満）、黄色軽石（極小）若干、黄色ブロック（小）若干含む。締まり粘性ともあり。
3 層　黒褐色　黄色軽石（極小）１％含む。２層よりわずかに黄色。締まり粘性ともあり。
4 層　オリーブ褐色　黄色軽石（極小）若干、黄褐色土と黒褐色土のまだら状。締まりややあり、粘性あり。

0　S=1:30 竈　1m　0　S=1:60 住居　2m

Fig.6 H-1,6 号住居・D-3 号土坑





D-1号土坑

1a層 黒褐色 白色軽石粒・黄色ブロック（中）1%、黄色粒 2% 含む。締まりあり、粘性ややあり。

1b層 黒褐色 黄色粒 2% 含む。締まりあり、粘性ややあり。

D-2号土坑

1層 暗灰黄色 白色軽石（小）2%、黄色軽石・黄色ブロック 1% 含む。締まり非常にあり、粘性なし。

2層 黒褐色 黄色軽石（中）3%、黄色粒・白色軽石（小）・黄色ブロック（中）1% 含む。締まりあり、粘性なし。

3層 暗灰黄色 白色軽石・黄色ブロック（中）1%、黄色粒 2% 含む。締まりあり、粘性ややあり。

4層 黒褐色 黄色粒 2%、黄色軽石・焼土粒・1% 未満含む。締まり、粘性ともにあり。

H-2号住居跡

1層 オリーブ褐色 白色軽石（小）2%、黄色軽石（極小）1%含む。締まりあり、粘性ややあり。

2層 オリーブ褐色 白色軽石（極小）、黄色軽石（極小）を若干（1%未満）含む。12層よりわずかやわらかい。

3層 黄褐色 白色軽石（極小）を若干含む。締まりあり、粘性ややあり。

J-1号住居跡

4層 暗灰黄色 締まりややあり、粘性なし。

5層 暗灰黄色 白色粒 2%、黄色粒 1% 未満含む。締まり非常にあり、粘性なし。

H-2号住居跡 電セクション

1層 黄褐色 白色軽石（小）・焼土粒 1%・黄色ブロック（中）1% 未満含む。締まりあり、粘性ややあり。

2層 黄褐色 焼土粒・炭化物 1% 含む。締まりあり、粘性ややあり。

3層 灰黄褐色 白色軽石（小）2%、焼土粒・黄色軽石粒（小）・黄色ブロック（中）1% 含む。締まりあり、粘性ややあり。

4層 にぶい黄褐色 黄色粒 1% 含む。締まり・粘性ややあり。

5層 灰黄褐色 白色軽石粒・黄色軽石粒・黄色粒・焼土粒 1% 含む。締まりあり、粘性ややあり。

6a層 黄褐色 黄色ブロック（大）・焼土ブロック（中）1% 含む。締まりあり、粘性ややあり。

6b層 灰色 灰層

H-2号住居跡 貯蔵穴セクション

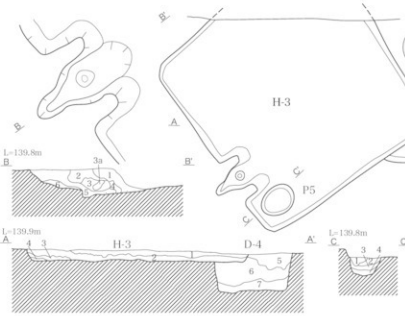
1層 暗オリーブ褐色 焼土粒・黄色ブロック（中）2%、炭化物 1% 含む。締まりややあり、粘性あり。

2層 オリーブ褐色 黄色ブロック（小から中）2%、炭化物 1% 含む。締まりややあり、粘性あり。

0 S=1:30 遺 1m

0 S=1:60 住居 2m

Fig.7 H-2 号住居・D-1,2 号土坑



D-4 号土坑

5 層　オリーブ褐色　黄色ブロック（大）7 %、白色軽石（小）1 %含む。締まり強、粘性ややあり。

6 層　暗オリーブ褐色　黄色ブロック（大）5 %、白色軽石若干含む。締まりあり、粘性ややあり。

7 層　黒褐色　黄色ブロック（大）2 %、白色軽石若干含む。締まりややあり、粘性あり。

H-3 号住居跡

1 層　にぶい黄褐色　白色軽石（極小）3 %、黄色ブロック（中）5 %含む。締まりあり、粘性ややあり。

2 層　にぶい黄褐色　黄色ブロック（極大）2 %含む。締まりあり、粘性ややあり。

3 層　黒褐色　黄色粒若干、黄色ブロック（中）2 %含む。締まりあり、粘性ややあり。

4 層　にぶい黄褐色　黄色ブロック（中）1 %含む。締まり粘性ともにややあり。

H-3 号住居跡 竈セクション

1 層　にぶい黄褐色 白色軽石（小）・灰ブロック・焼土ブロック 1% 含む。締まりあり、粘性ややあり。

2 層　にぶい黄褐色 焼土ブロック主体。締まり非常にあり、粘性なし。

3a 層 にぶい黄褐色 焼土ブロック主体。灰 1% 含む。締まり非常にあり、粘性なし。

4 層　オリーブ褐色 黄色軽石（小）・焼土ブロック 1% 含む。締まりややあり、粘性あり。

2%、凝灰岩質砂岩ブロック（極小）2%、炭化物 1%、黄燈色粒（極小）1% 未満含む。

5 層　灰黄色 焼土ブロック（大）10%、炭化物 1% 含む。締まり非常にあり、粘性ややあり。

6 層　灰黄色 焼土含まず、黄色粒含む。

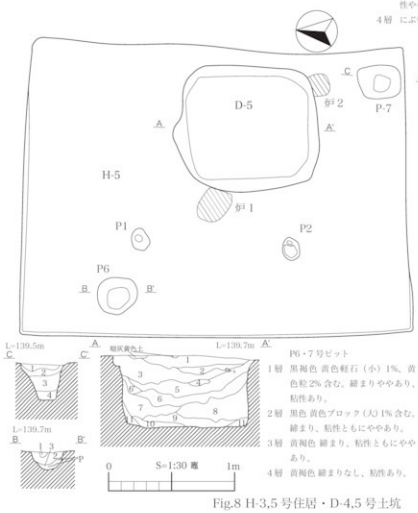
H-3 号住居跡 貯蔵穴セクション

1 層　黒色 白色軽石 1% 含む。締まりなし、粘性ややあり。

2 層　褐色 黄色粒（小）20% 含む。締まりなし、粘性ややあり。

3 層　にぶい褐色 黄色ブロック（大）10% 含む。締まりなし、粘性ややあり。

4 層　にぶい黄褐色 締まりあり、粘性強い。



D-5 号土坑

1 層　暗褐色　白色軽石（中）3 %、黄色軽石（小）2 %、黄色粒（極小）1 %、炭化物を若干（1 %未満）含む。締まりあり、粘性ややあり。

2 層　黒褐色　黄色軽石（小）、黄色粒（極小）を 5 %含む。締まりややあり、粘性あり。

3 層　黒色　黄色軽石（小）3 %、黄色粒（極小）を 2 %、炭化物を若干含む。締まりややあり、粘性あり。

4 層　明黄褐色　白色軽石（小）1 %含む。締まりあり、粘性ややあり。

5 層　暗灰黄色　焼土ブロック（中）、炭化物を若干、白色軽石（中）を 1 %、黄色粒（極小）2 %を含む。締まりややあり、粘性あり。

6 層　暗灰黄色　5 層よりやや黒色だが、同質の土。締まりややあり、粘性あり。

6′層　6 層とほぼ同じ。

7 層　暗灰黄色　5 層に黄色ブロック（大）5 %、明赤褐色粒（極小）若干が混ざった土質。

8 層　黄褐色　白色軽石（中）1 %、明赤褐色ブロック（小）若干、炭化物若干含む。締まりややあり、粘性あり。

9 層　黄褐色　白色軽石（小）若干、明赤褐色ブロック（小）若干、炭化物若干含む。8 層と同質の土。締まりややあり、粘性あり。

10 層　暗灰黄色　黄色ブロック（径 1 ～ 2mm）7 %白色粒若干含む。締まり粘性ともあり。

11 層　暗灰黄色　10 層とほぼ同質。黄色ブロック、白色粒含まず。締まりややあり、粘性あり。

P6・7 号ピット

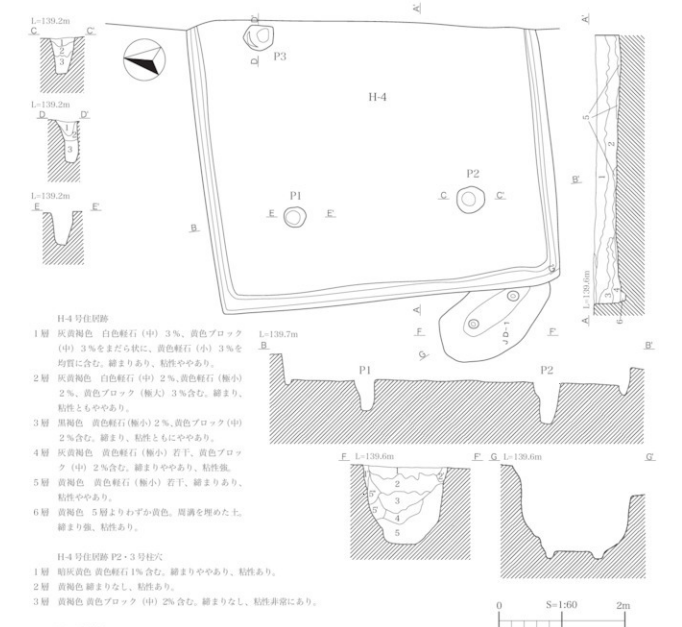
1 層　黒褐色 黄色軽石（小）1%、黄色粒 2% 含む。締まりややあり、粘性あり。

2 層　黒色 黄色ブロック（大）1% 含む。締まり、粘性ともにややあり。

3 層　黄褐色 締まり、粘性ともにややあり。

4 層　黄褐色 締まりなし、粘性あり。

Fig.8 H-3,5 号住居・D-4,5 号土坑



H-4 号住居跡

1 層　灰黄褐色　白色軽石（中）３%、黄色ブロック（中）３%をまだら状に、黄色軽石（小）３%を均質に含む。締まりあり、粘性ややあり。

2 層　灰黄褐色　白色軽石（中）２%、黄色軽石（極小）２%、黄色ブロック（極大）３%含む。締まり、粘性ともややあり。

3 層　黒褐色　黄色軽石（極小）２%、黄色ブロック（中）２%含む。締まり、粘性ともにややあり。

4 層　灰黄褐色　黄色軽石（極小）若干、黄色ブロック（中）２%含む。締まりややあり、粘性強。

5 層　黄褐色　黄色軽石（極小）若干、締まりあり、粘性ややあり。

6 層　黄褐色　５層よりわずか黄色。周溝を埋めた土。締まり強、粘性あり。

H-4 号住居跡 P2・3 号柱穴

1 層　暗灰黄色 黄色軽石 1% 含む。締まりややあり、粘性あり。

2 層　黄褐色 締まりなし、粘性あり。

3 層　黄褐色 黄色ブロック（中）2% 含む。締まりなし、粘性非常にあり。

JD-1 号土坑

1 層　黒褐色　白色軽石（小）１%、黄色粒（極小）１%含む。締まりあり、粘性なし。

1' 層　黒褐色　１層とほぼ同じ。

2 層　黒褐色　白色軽石（小）１%、黒色ブロック（中）５%含む。締まりあり、粘性ややあり。

2' 層　黒褐色　２層とほぼ同じ。２層との境界に軽石が偏り含まれる。

3 層　暗褐色　白色軽石（小）２%、黄色粒（極小）１０%含む。締まり強、粘性ややあり。

4 層　褐色　白色軽石（小）５%含む。締まり強、粘性あり。

5 層　にぶい黄褐色　ローム漸移層に近い。締まり、粘性とも強。

5' 層　黄褐　白色軽石（小）１%含む。

5'' 層　黄褐　黄色ブロック（極大）５０%含む。

W-1 号溝跡

1 層　暗褐色 白色軽石 10%、黄色粒(小)5% 含む。締まりあり、粘性なし。

2 層　暗褐色 黄色ブロック（大）20% 含む。締まりあり、粘性なし。

Fig.9 H-4 号住居・JD-1 号陥し穴・W-1 号溝

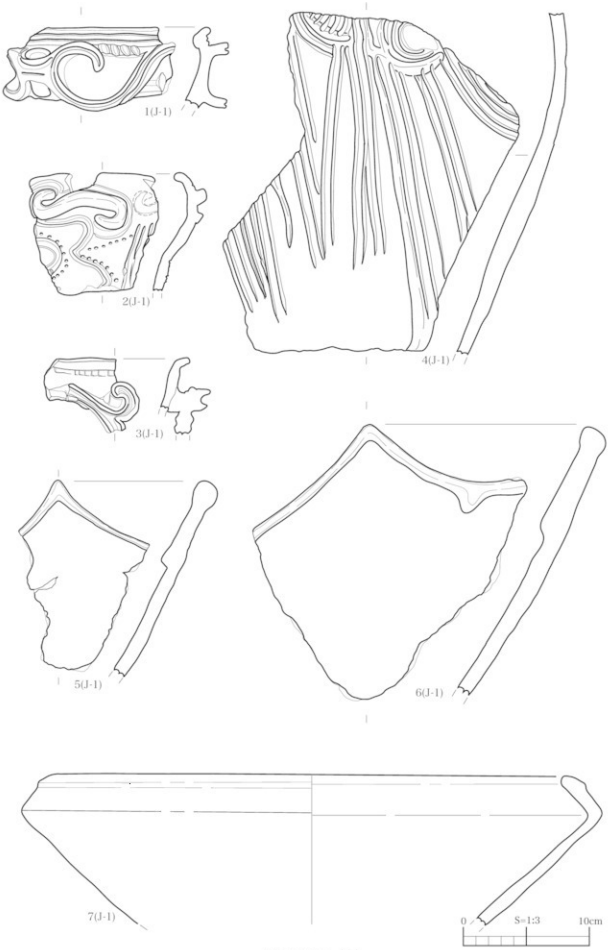


Fig.10 土器（1）

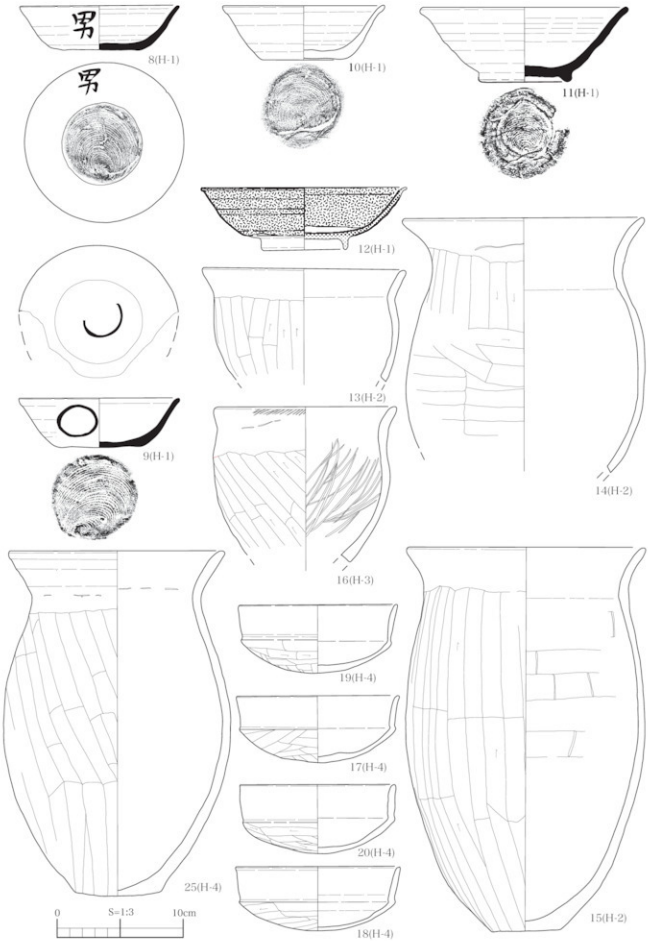

8(H-1)
10(H-1)
11(H-1)
12(H-1)
13(H-2)
14(H-2)
9(H-1)
16(H-3)
19(H-4)
17(H-4)
20(H-4)
25(H-4)
18(H-4)
15(H-2)
0
S=1:3
10cm

Fig.11 土器（2）

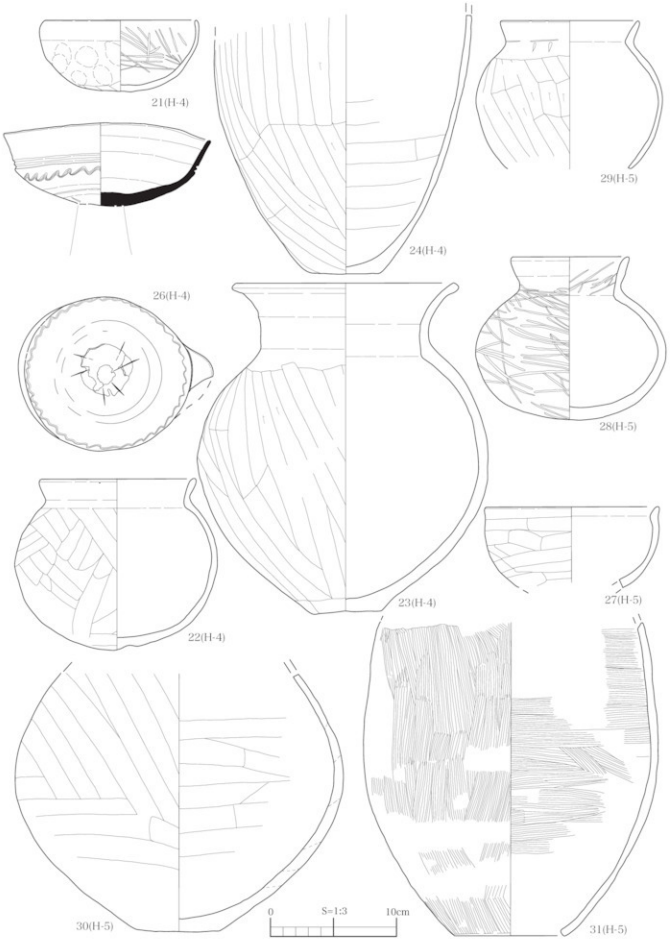


Fig.12 土器（3）

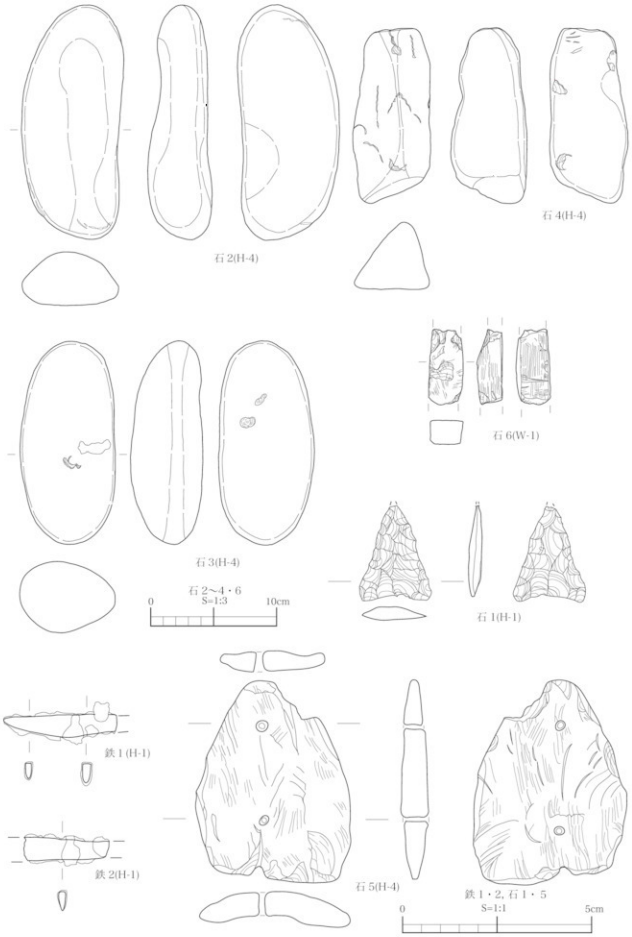
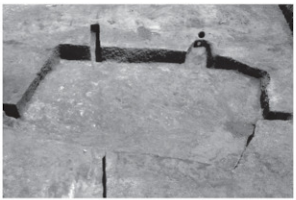
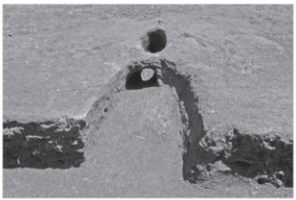


Fig.13 石器・石製品・鉄製品

調査区東側 全景（東から）



H－１号住居跡 全景（西から）

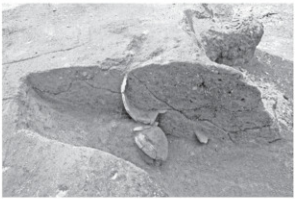


H－１号住居跡 竈全景（西から）

H－２号住居跡 全景（西から）

H－２号住居跡 竈全景（西から）

H－１号住居跡 竈内遺物出土状況（北から）



H－２号住居跡 竈内遺物出土状況（北から）

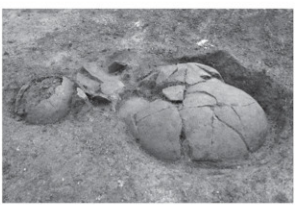
H－３号住居跡 全景（北から）

H－３号住居跡 竈セクション（南から）

H－４号住居跡 全景（南から）

H－４号住居跡 遺物出土状況（北から）

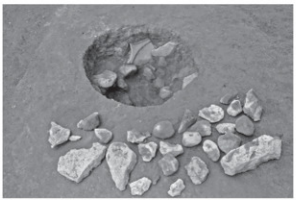
H－５号住居跡 全景（南から）



H－５号住居跡 遺物出土状況（西から）

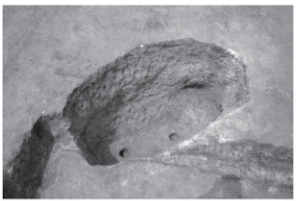
Ｊ－１号住居跡 全景（西から）

Ｊ－１号住居跡 炉全景（西から）

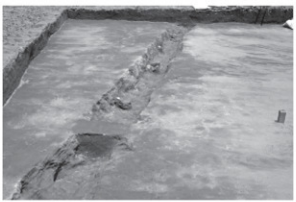


Ｊ－１号住居跡 炉と出土の石（西から）

Ｈ－６号住居跡　全景（西から）

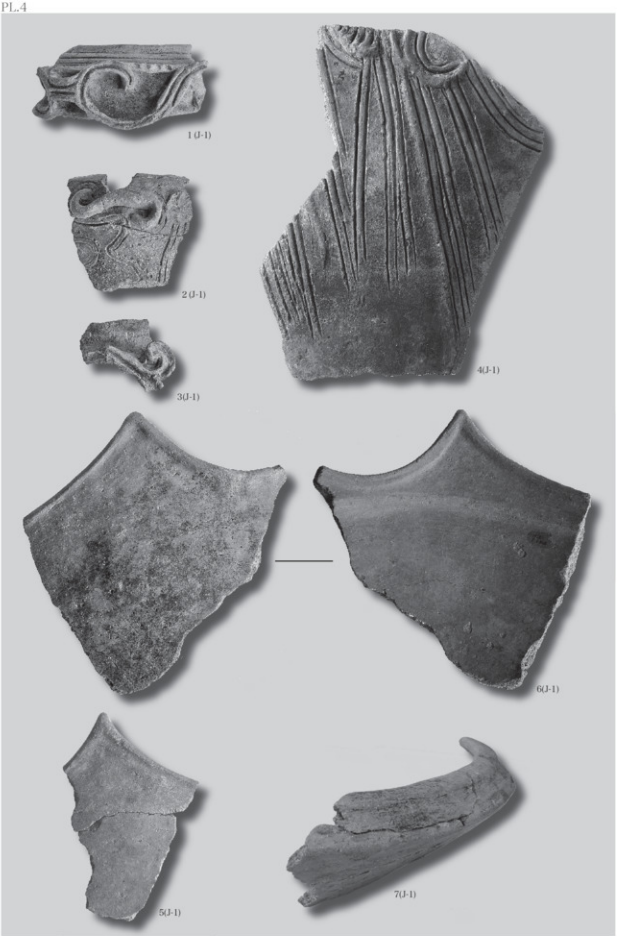


ＪＤ－１号土坑 全景（東から）



Ｗ－１号溝 全景（南から）

基本層序（南から）


1(J-1)
2(J-1)
3(J-1)
4(J-1)
5(J-1)
6(J-1)
7(J-1)

8(H-1)
10(H-1)
11(H-1)
12(H-1)
9(H-1)
13(H-2)
14(H-2)
16(H-3)
19(H-4)
20(H-4)
17(H-4)
18(H-4)
15(H-2)
25(H-4)

21(H-4)
24(H-4)
29(H-5)
26(H-4)
27(H-5)
22(H-4)
23(H-4)
31(H-5)
30(H-5)
28(H-5)

報告書抄録

フリガナ	テンジンブロイセキグン
書名	天神風呂遺跡群
副書名	前橋市茂木町宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	大﨑 和久・遠藤 たか美
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目10-2
発行年月日	西暦2006年3月23日

所収遺物名	所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
天神風呂遺跡群（テンジンブロイセキグン）	前橋市茂木町339-2（マエバシシモトギマチ）	10201	1712	36°24′24″	139°09′04″	20050715~20050803	387㎡	前橋市茂木町宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
天神風呂遺跡群	集落跡	縄文、古墳、奈良・平安時代 中世	（縄文）竪穴住居跡１軒、陥し穴１基、（古墳）竪穴住居跡５軒（奈良・平安時代）竪穴住居跡１軒、（中世）溝１条、土坑５基 他	縄文土器、土師器、須恵器、鉄器、石器等

天神風呂遺跡群

前橋市茂木町宅地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2006年3月23日 発　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目１０－２
TEL　０２７－２３１－９５３１

印　刷　日本特急印刷株式会社
前橋市下小出町２－９－２５
TEL　０２７－２３３－２００２